

## 商店街に賑わいと活気を

スーパー軽トラ市

採れたての農産物などを直売する「スーパー軽トラ市」が7月14日、歩行者天国となった鷹巣駅前通りと銀座通り両商店街で開かれ、大勢の市民らで賑わいました。

平成19年の秋から行っている「軽トラ市」は、出店数や来場者の伸び悩みを踏まえ、今年は開催をこれまでの年4回から年2回に、名称を「スーパー軽トラ市」と改称し、近隣市町村のB級グルメや秋田北鷹高校の生徒による直売店の開設など、内容を充実させ開催しました。



▲歩行者天国となった会場は、大勢の買い物客で賑わいました

会長、北秋田市商工会の伊藤公夫会長があいさつ。続いて、空き店舗を利用した秋田北鷹高校生物資源科生徒による1日限定の「秋田北鷹@まごころ販売所」前で、テープカットを行いオープンを祝いました。

同販売所では、せり、シシトウ、オクラ、キュウリなどの野菜や花の鉢、リンゴジュース、肉巻きタンポなどの企画商品も販売されました。今回は、軽トラックとフリーマーケットの35店舗が出店。男鹿市のしょつつる焼きそば、八峰町のイカ焼き、三種町の三種巻きなどのB級グルメや、新鮮な野菜、花、特産品、加工品を積んだ軽トラック、軒先に並べられた民芸品、加工品などが並びフリーマーケットなどで、にぎやかな目抜き通りとなりました。

会場では、鷹巣小学校の金管バンド演奏、よさこいソーラン・二ツ井恋舞の演舞が披露されたほか、秋田内陸縦貫鉄道や秋田北鷹高校から来場者へブレゼントが贈られました。また、三種町の流しジュンサイ、北秋田ゆるキャラ大集合など、盛りだくさんのイベントが繰り広げられました。

## 「とれたて村」に参加し1周年

北秋田市特産品夏の新作フェア

東京都板橋区のハッピーロード大山商店街で、7月2日と3日、「北秋田市特産品夏の新作フェア」が開かれ、大勢の買い物客で賑わいました。大山商店街振興組合が運営する全国ふる里ふれあいショップ「とれたて村」には、全国の15市町村から出品される産地直送の安全で安心な野菜や果物、米、加工食品、お菓子などが並びます。北秋田市では昨年の7月からアンテナショップとして「とれたて村」に参加し、現在100品目を出品しています。



▲大勢の買い物客が詰めかけた、とれたて村の北秋田市特産品夏の新作フェア

参加1周年となるフェアには、虻川副市長や商工観光課職員、事業所



▲北秋田市の野菜や加工品、特産品などが販売されました

## 「バター餅の里」を宣言

日本バター餅協会設立総会

日本バター餅協会の設立総会が、7月23日、交流センターで開かれ、製造者や小売業者、バター餅を応援し、街おこし活動に参加しようとする個人、団体から26人が出席しました。

バター餅は、新聞やテレビ番組で取り上げられて以来、爆発的な人気が続いています。一方で、市外で品質や味にばらつきのある商品が次々に販売され、北秋田市のイメージダウンにならないか心配されており、品質を確保し、市外で製造販売されている商品との差別化を図り、誘客と販売の拡大により地域の活性化につなげていく目的で設立しました。



▲津谷市長が、声高らかに「バター餅の里」を宣言

今年度の事業計画では、市が申請中の「北あきたバター餅」の商標を使用する際の審査や、バター餅マップ、のぼりでの広報宣伝、ゆるキャラ公募による街おこし活動などを行うことになりました。

最後に津谷市長が「北あきたバター餅を、北秋田市を代表する特産品として育てていき、北秋田ブランドの確立を目指し、本日ここに北秋田市『バター餅の里』を宣言します」などと述べ、出席者から大きな拍手が沸き起こりました。

**日本バター餅協会では「北あきたバター餅」のゆるキャラを募集します**

【募集内容】「北あきたバター餅」をモチーフとした「ゆるキャラ」のイラストと名前

【応募方法】官製はがきに募集内容と、応募者の住所・氏名・電話番号を記入してお送りください。

【応募期限】8月20日(月)

【応募先・お問い合わせ】日本バター餅協会事務局 (北秋田市商工観光課内)

〒018-4301 電話 72-3112  
北秋田市米内沢字七曲23

## 男女共同参画の視点で防災を

第1回大阿仁地区防災勉強会

第1回大阿仁地区防災勉強会が7月5日、比立内環境改善センターで開かれ、市民ら約80人が参加し防災について理解を深めました。

勉強会は、地域住民が自ら課題を出し合いながら、男女共同参画の視点で実践的な取り組みを行い災害へ備えることを目的に、大阿仁地区自治連合会と市が主催しました。

はじめに、津谷市長が「地域の方々に自主防災組織を作っていたら、防災活動に取り組んでもらうよう協力をお願いしているところで、男女に関係なく、自分たちの地域、自分たちの命はしっかり協力して守っていかうという意識が、お互いに芽生えるような勉強会であってほしい」などとあいさつ。続いて、大阿仁地区自治連合会の松橋悦治会長が「災害に備え、各自治会が計画を持って自治会の体制を整えていく時期にきたと思う」と述べました。

講演会では、秋田県立大学木材高度加工研究所の渡辺千明准教授が「みんなですめる地域の防災」と題して講演。渡辺准教授は、女性自治会長がいる能代市上町自治会の防災への取り組みなどを紹介しながら



▲住民ら80人が参加し、防災について理解を深めた勉強会